

「在日外国人の話」

1994.8.30 放送

ブルース・L・バートン

今晚は。

今回は在日外国人について考えたいと思います。

まず事実関係ですが、法務省の調べでは、在日外国人の数は約 130 万人と言うことで、日本の総人口のちょうど 1%に当たります。この場合の在日外国人とは、いわゆる外国人登録の手続きをとっている人たちです。日本の法律では、外国人が 90 日以上日本に滞在すると、最寄りの市役所や区役所に行って届け出をする義務があります。その時、役所から、外国人登録証明書と言うものを発行してもらうわけですが、先ほどの 130 万人と言うのは、この手続きをとっている外国人の数です。この他に、90 日以内に帰国する観光客その他の短期滞在者もいますが、日本に住んでいませんので、今回の話の対象からは外したいと思います。

いずれにしても、日本の街角で会う人の 100 人に 1 人は在日外国人です。私がこの数字を最初に聞いた時は、「まさかそんなにいないだろう」と驚きましたが、恐らく視聴者の方たちの多くにとっても想像以上の数字だと思います。

在日外国人の国籍を見ると、韓国・朝鮮が一番多くて、全体の 54%を占めています。続いて、中国が 15%、ブラジルが 12%、フィリピンが 5%、アメリカが 3%、ペルーが 2%、イギリスが 1%、その他が約 8%、と言うふうになっていますが、全体的に見ると、アジアの人々が圧倒的に多いと言うことが分かります。この人たちは、外見上、日本人とそれほど変わりませんから、普段その存在にあまり気が付かないのではないのでしょうか。

このように、在日外国人の人口は皆さんが普段考えているよりは多いかも知れませんが、実は、国際的な水準から言うと、まだ少ない方だそうです。例えば、専門家の話によると、欧米の諸国では、外国人人口が全体の 5%乃至 8%と言うのが、平均的な数字です。多いところでは、10 数%というのもあります。これに比べると、日本の 1%は非常に少ないと思われれます。

日本の外国人人口はなぜ少ないのでしょうか。大きく分けて二つの理由があります。第一に、単純なことですが、欧米の諸国に比べて、日本に来て住んでみたいと言う外国人が今まで少なかったと言うことができるでしょう。在日韓国・朝鮮人については、もともと植民地時代に強制的に来日した、と言う歴史的背景もあって、事情が違いますが、他の外国人は、もちろん自らの意志で入国しています。その目的は、勉強や仕事や結婚など、色々ですが、今まで入国者の数が他の先進国に比べて少なかったのは、日本と言う国自体が最近まで周辺的な存在で、人の関心を引きつけるには至らなかったと言うことができるかも知れません。

外国人人口が少ないもう一つの理由は、おおざっぱな言い方ですが、日本に来たくても

来にくい事情が色々あるからです。土地の狭い島国ですし、言葉も難しいし、社会も色々な意味で閉鎖的なところがあると言われていています。制度の面でも、ヨーロッパの諸国とは違って、いわゆる外国人単純労働者の入国を認めないと言う国の方針もあります。

このように、日本の外国人人口は、先進国の中では少ない方ですが、これから急増する可能性は十分あると思います。日本はもはや周辺的な存在ではなく、世界の大国の一つです。それだけに日本に関心を持つ外国人が以前より増えてきましたし、これからも増え続けるでしょう。日本に来にくい事情はある程度残るでしょうけれども、一方、日本人単純労働者の人手不足など、外国人の入国を促す経済的・社会的事情もでてくると思われます。実際、法務省のデータを見る限り、在日外国人の数が毎年着実に増えてきていますが、この傾向は当分続くに違いありません。

異論もあるかも知れませんが、私は、これは大変いいことだと思います。なるべく多くの外国人に来てもらうと言うことは、最終的には日本にとって大きなプラスになると思います。なぜなら、この人たちが、色々な舞台で日本の理解者になってくれるからです。

今はまだ日本のことをよく知っている外国人が少な過ぎます。私の母国のアメリカを見ても、日本の事情がよく分かるジャーナリストがあまりいませんから、マスコミの描く日本像は、表面的で間違いだらけです。また、連邦政府にも日本通の高官がないので対日政策も非現実的な場合が多いように思います。これはアメリカにとってももちろんマイナスですが、日本にとっても大変不都合な話です。

以前この番組で申し上げましたように、こうした事態を改善するには、より多くの外国人が実際日本に来て、日本語や日本の事情を学ぶ必要が出てくるでしょう。来日する外国人の多くは、興味があるからこそ来るでしょうから、最初から好意を持っているはずですし、日本で暮らすことによって、よりよき理解者になっていくに違いありません。

ただ、ここで一つ断っておきたいのですが、私は何も、外国人が日本でいい経験ができるように、特別に親切に扱ってください、と言っているわけではありません。実際、日本人は外国人に対して必要以上に親切にしてくれることが多いのです。私も長年その恩恵にあずかっていますから、批判する立場ではありませんが、親切に言うことは、結局お客さん扱いです。観光に来る人たちなどは、文字どおりのお客さんですから、これでいいかも知れませんが、長期滞在者や永住者となると話は違ってきます。最初のうちは非常に気持ちがいいのですが、だんだん負担になってきます。日本人は好意的なつもりでも、外国人の方は、何年経っても、自分はよそ者で、日本社会に受け入れてもらえない、と言う印象を受けかねません。外国人と言うだけで特別扱いに言うことは、そのつもりがなくても、一種の差別行為で、結果として日本人と外国人との間に壁をつくることになります。外国人としてではなく、一人の人間としてつき合っていたきたいと思います。

ここで一番重要なのは、外国人に対する先入観やステレオタイプを捨てるということだと思います。外国人と言う言葉を聞いた時、皆さんはどのような人を想像するでしょうか。恐らく外見も性格も日本人と対照的な人、例えば目が青く、金髪で、陽気で、ものをストレート

に言う西洋人、こう言った人ではないでしょうか。しかし、はじめに言ったように、こんな人たちはほんの一部です。日本人に色々なタイプの人がありますが、それ以上に外国人にも色々なタイプがあって、典型的な日本人とかなり違う人もいれば、よく似た人もいます。そもそも日本人はこうです、外国人はああです、と言う考え方自体は、お互いに関する一面的なイメージを対照させることによって、かえって偏見を呼び起こし、国際交流を阻止することがあります。

私自身も外国人、あるいはアメリカ人と言う一般的なイメージに合うかどうかは分かりませんが、10数年日本で暮らしてきましたし、これからも日本に住んでいきたいと思えます。外見は、皆さんと違うかも知れませんが、心は、通じ合うところが多いのです。長期滞在の外国人の多くは、その意味では、きっと私と同じでしょう。外国人、アメリカ人と言うレッテルを外して、あくまでも日本社会の一員としてつき合ってほしいと思えます。

では、また。